

第10回 南九州水産海洋研究集会

赤潮

研究の最前線

2026年

11月28日(土) 13:15-17:30

鹿児島大学 **水産学部**
4号館 23号教室



【セッション1 現状・課題, モニタリング】

- (1) 鹿児島県海域における赤潮モニタリングの現状と課題
- (2) 最新鋭デバイスを用いた八代海の赤潮モニタリング
- (3) 赤潮プランクトンの種同定:分子系統解析と動画・模型教材の活用
- (4) 鹿児島湾における赤潮監視スマート化の試み

【セッション2 予測・対策】

- (5) 熊本県海域における赤潮対策の現状と課題
- (6) 微生物流体数理による赤潮研究への挑戦
- (7) 選抜育種による赤潮に強いブリの開発
- (8) 赤潮によるブリの斃死機構解明と新たな被害軽減技術開発への展望

【主催】水産海洋学会

【共催】水産研究・教育機構 水産技術研究所、鹿児島大学水産学部、熊本県水産研究センター
鹿児島県水産技術開発センター

【後援】熊本県海水養殖漁業協同組合、鹿児島県かん水養魚協会



日 時：2026年11月28日（土）13：15～17：30

場 所：鹿児島大学水産学部4号館23号教室（鹿児島市下荒田4丁目）

コンビナー：紫加田 知幸（水産機構技術研），生嶋 登（熊本水研セ），宍道 弘敏（鹿児島水技セ）

主 催：（一社）水産海洋学会

共 催：水産研究・教育機構 水産技術研究所，鹿児島大学水産学部，熊本県水産研究センター，鹿児島県
水産技術開発センター

後 援：熊本県海水養殖漁業協同組合，鹿児島県かん水養魚協会

挨 拶：伊藤 進一（一般社団法人水産海洋学会長）

13：15～13：20

森永 法政（鹿児島県水産技術開発センター所長）

13：20～13：25

趣旨説明：紫加田 知幸（水産機構技術研）

13：25～13：35

話題提供

1. 現状・課題，モニタリング

座長：中野 善（水産機構技術研）

（1）鹿児島県海域における赤潮モニタリングの現状と課題

久保 満（鹿児島水技セ）

13：35～13：55

（2）最新鋭デバイスを用いた八代海の赤潮モニタリング

杉松 宏一（水産機構技術研）

13：55～14：15

（3）赤潮プランクトンの種同定：分子系統解析と動画・模型教材の活用

西村 朋宏（水産機構技術研）

14：15～14：35

（4）鹿児島湾における赤潮監視スマート化の試み

小針 統（鹿大水）

14：35～14：55

（休 憩）

14：55～15：10

2. 予測・対策

座長：宍道 弘敏（鹿児島水技セ）

（5）熊本県海域における赤潮対策の現状と課題

生嶋 登（熊本水研セ）

15：10～15：30

（6）微生物流体数理による赤潮研究への挑戦

石本 健太（京都大）

15：30～15：50

（7）選抜育種による赤潮に強いブリの開発

菅谷 琢磨（水産機構技術研）

15：50～16：10

（8）赤潮によるブリの斃死機構解明と新たな被害軽減技術開発への展望

長谷川 祐也（水産機構技術研）

16：10～16：30

（休 憩）

16：30～16：45

総合討論

座長：紫加田 知幸（水産機構技術研），生嶋 登（熊本水研セ），宍道 弘敏（鹿児島水技セ）

16：45～17：30

開催趣旨

南九州は我が国有数のブリ類養殖産地であり，熊本，鹿児島，宮崎の3県で生産量は全国の約5割を占める。一方，ひとたび大規模に赤潮が発生すると，漁業被害が数億～数10億円規模に及ぶ場合があり，これまでたびたび漁業関係者を苦しめてきた。これに対し研究機関では，効果的な粘土散布技術の開発や赤潮原因生物そのものに対する理解の促進等，赤潮被害の低減に向けた研究が行われてきた。さらに近年，新たな機器の導入等による赤潮防除対策技術開発が精力的に進められ，多くの知見が蓄積されつつある。そこで本研究集会では，赤潮原因生物や赤潮発生機序，赤潮被害防除技術に関する最新の知見や，赤潮生物の早期検知，早期発生予察，迅速な情報発信を可能とする最新の科学技術について水産業界関係者，行政・研究関係者間で情報共有し，参加者間の意見交換を通じて，今後の水産業界の対応や行政施策，調査研究のあるべき姿を展望する。

(別紙)

【送付先 F a x : 0 9 9 3 - 2 7 - 9 2 1 8】

漁場環境部 宍道 行き

第 1 0 回 南九州水産海洋研究集会

出 席 連 絡 票

機 関 名 : _____
担当者名 : _____
連 絡 先 : (電話) _____

所 属	職 名	氏 名